

平成26年第2回大仙市議会定例会

# 市 政 報 告

平成26年6月2日

大仙市長 栗 林 次 美

平成26年第2回大仙市議会定例会にあたり、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況について報告いたします。

はじめに、市街地再開発事業についてであります。

大曲通町地区第一種市街地再開発事業については、北街区建築工事の完了を受け、3月25日に再開発組合から各建物取得者に引き渡しを行い、4月14日には竣工式を行っております。

平成22年3月の再開発基本構想策定から4年という短い期間で竣工を迎えることができ、議員各位のご理解、ご協力に改めて感謝申し上げる次第であります。

北街区には、大仙北圏域医療の中核を担う「大曲厚生医療センター」を中心に、病院退院から在宅生活に移行する間の介護ニーズに対応する「ショートステイやすらぎ」、市民活動や交流の拠点となる大仙市市民活動交流拠点センターをはじめ薬局3店舗を複合する「Anbee（あんべー）大曲」、圏域の玄関口となる「大曲バスターミナル」が整備され、医療・福祉・交通等が連携した駅前の新たな顔として、5月1日に全施設がオープンしております。

完成した大曲厚生医療センターは、新しい医療機器の導入や更新により診療体制の充実が図られるとともに、屋上ヘリポートの設置や、県内初となる救急ワークステーションの配備、緩和ケア病棟開設などの新たな取り組みと合わせ、救急医療体制や医療機能のより一層の充実強化、地域医療水準の向上が図られるものと期待しているところであります。

市といたしましても、先般、市と大曲厚生医療センターによる「大仙市医療・行政連携連絡会」を設置しており、医師確保等地域医療が抱える課題や高まる来院者ニーズへの対応等について、引き続き病院と緊密な連携を図りながら、市民の声や要望を病院側に伝え、利用しやすい病院づくりに努めてまいりたいと考えております。

南街区については、旧病院における不要備品の搬出作業に時間を要したことから、予定より約1カ月遅れて5月末から旧病院の解体工事に着手しており、5月29日には工事の安全祈願祭が行われております。計画では、9月末には解体工事を完了する予定でありましたが、5月27日の市街地再開発組合理事

会において、解体工事の完了が10月末になる予定との報告があったところであり、また、解体工事の遅れに伴い、南街区の施設建設工事の完成に遅れが見込まれますが、市街地再開発組合の清算事務を含め、平成27年度中には全ての事業が完了する予定であります。

次に、花火産業構想についてであります。

昨年度末に大曲商工会議所、大仙市商工会、市の三者によるプロジェクト会議において策定いたしました花火産業構想については、本年度から、構想の実現に向けた所要の取り組みを進めることとしております。

このため、庁内に両副市長を総括・監督とする「花火産業構想推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、具体的な事業計画の立案作業に着手しており、三者でそれぞれが主体的に行う事業の進捗状況を確認しながら、事業計画の素案を作成してまいります。

構想の推進にあたり、国、県等に対して構想への協力をすでに要望しておりますが、連携が必要な各種団体、機関に対しても、今後、協力を要望してまいります。なお、構想に掲げる施策のうち、県と市が協働で推進することが必要であり、また、効果的な事業については、県の支援策である「秋田県市町村未来づくり協働プログラム」による取り組みとして進めるべく、現在、県との協議を行っております。

次に、スプリングレビューについて報告いたします。

スプリングレビュー（主要課題調整会議）については、当初予算編成後の様々な状況を捉えながら、本年度実施事業における課題や中長期的な施策課題の早期調整により、事務事業の円滑な実施を図ることを目的に、平成18年度から実施しているものであります。

本年度は、4月17日から5月13日までの9日間、次期総合計画策定に向けた体制・スケジュールや自主防災組織の組織率向上対策などのほか、各地域が抱える課題への対応や解決への方向性など、計32項目について協議を行っております。

それでは、各部局の主要事業の進捗状況について報告いたします。

はじめに、総務部関係についてであります。

職員採用については、新卒者等を対象とした一般行政事務職員、土木技術職員及び保健師など計17名程度と、一定の社会経験のある職務等経験者若干名を採用予定として、本日から申し込みの受け付けを開始しております。

これまで、第1次試験については、9月の第1日曜日に実施していましたが、本市を志望する能力ある人材を早期に確保する観点から、試験日を約1カ月早め、本年度は7月27日に実施することとしております。

また、大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用については、上級消防、上級職務経験者、初級消防、初級救命、初級職務経験者の区分で合わせて10名程度の採用予定とし、第1次試験を上級が7月27日に、初級が9月21日に実施する予定としております。

職員の再任用については、退職共済年金の支給開始年齢が昨年度以降段階的に60歳から65歳へと引き上げられることに伴い、無収入期間が発生しないよう、昨年度末、大曲市職員の再任用に関する要綱を新たに定め、本年度から施行しております。

昨年度まで、特定の事業における事務等の支援のため4名を再任用していましたが、各職場の職員構成、業務内容の状況と再任用希望者の希望等を調整し、本年度は、新たに11名を再任用しております。

市庁舎の耐震改修については、本年度は、協和及び仙北庁舎の耐震改修工事を今月中旬に発注し、11月中の完了を目指しております。これにより、8庁舎のうち耐震化が必要とされていた3庁舎の改修については、全て終了することとなります。

なお、本年度の耐震改修を予定している太田体育館については、体育館の利用状況を踏まえ、8月下旬の発注を予定しております。

防災対策については、5月19日、20日の両日、本市において、神奈川県座間市との災害時相互応援協定に基づく災害対策連絡会議を開催しております。この会議では、遠藤市長をはじめとする座間市の関係職員が大曲厚生医療センター等の視察を行ったほか、地域防災計画の見直し、消防団の充実強化及

び魅力化対策、座間市の防災行動訓練や大雪対策等について協議をし、災害時の協力体制を再確認しております。

なお、座間市からは、3月27日に高規格救急車を寄贈していただいておりますが、この高規格救急車は大曲仙北広域市町村圏組合消防本部大曲消防署に配備し、救急業務に活用しております。

次に、企画部関係についてであります。

コミュニティFM局の開局準備については、運営主体である株式会社TMO大曲が、本年開催の「大曲の花火」に合わせて実施を予定している試験放送のイベントFM放送に向けた無線局免許の申請、及びアナウンスや番組制作、機器操作といった研修を行っております。

また、放送局の愛称については5月30日まで公募を行っており、生活に密着した便利で役立つ情報のタイムリーな発信を目指すFM放送にふさわしく、覚えやすく親しまれる名称が今月中に決定される予定であります。

地域交通対策については、大曲厚生医療センターの開院に合わせ、5月1日から「中心市街地への人の流れの創出」と「日常生活における足の確保」を目的に、大曲地域の市街地周辺を運行している循環バスの再編を実施しております。主な再編内容といたしましては、これまでの反時計回りの運行に加えて、時計回りとなる逆回り運行も行い、交互に5便ずつ、10便運行とするものであります。

また、新たに200円13枚つづりの回数券を2,000円で販売するサービスを開始しておりますが、うち11枚は路線バスにも利用が可能としており、割安感とともに乗り継ぎへの利用など利便性の向上が図られるものと考えております。

自治組織における主体的活動、活性化及びコミュニティ意識の醸成を支援する「がんばる集落」活性化支援事業については、制度開始から4年目に入り、本年度はすでに10数件の問い合わせをいただいております。その中で今回、南外地域から申請のあった2団体については、事業開始時期が迫っていることから、明日、1回目の審査会を行う予定としております。今後も引き続き、周知に努め、集落支援員や各支所等と連携しながら申請団体の募集を行ってまい

ります。

広報だいせん「だいせん日和<sup>びより</sup>」については、日本広報協会が主催する平成26年度全国広報コンクール広報写真一枚写真の部において、「刈和野の大綱引き」の前哨戦である「押し合い」の写真が入選を果たしております。コンクールでの受賞は一昨年に続き通算7度目であり、受賞を励みに、今後も市民に親しまれる広報紙づくりを目指してまいります。

次に、市民部関係についてであります。

市役所大曲庁舎における窓口業務の延長については、昨年を引き続き、転勤や進学などで住民異動の多い3月24日から4月4日までの9日間、これまで市民課で行っている各種証明書の交付事務に加え、転入・転出等の住民異動事務も受け付けることとし、関連する税務課、国保年金課、児童家庭課及び上水道課においても、窓口業務を午後7時まで延長し、各種手続きの受け付けと交付事務を行っております。なお、この期間中に利用された方は合計213名で、このうち市民課を訪れた方は175名となっております。

公共施設再生可能エネルギー導入事業については、大曲西、平和、西仙北、中仙、協和、仙北、太田の各中学校7校の太陽光発電・蓄電池システム導入工事の発注を終え、11月中旬の完成予定となっております。

夏の節電対策については、昨年と同様に、取り組み期間を6月から9月までの4カ月間とし、市全体の節電目標を平成22年夏季との比較で最大使用電力で10%削減することとし、市民、事業者の皆様とともに節電に取り組んでいくこととしております。

今後は、「子どもエコチャレンジ」、「環境家族宣言」などの各種環境学習事業への市民の参加を呼びかけ、節電意識の定着に努めてまいります。

交通安全対策については、4月6日から15日までの間、春の全国交通安全運動が展開され、交通指導隊員による早朝の巡回指導、主要交差点での街頭指導、交通安全啓発キャンペーン等を実施しております。

また、本年度から2カ年で、市内各学校の主要通学路にグリーンベルトを設置することとしており、車の運転者に通学路であることを視覚的に認識していただき、通学する児童生徒の安全を確保し、さらなる交通事故の未然防止を図

りたいと考えております。

なお、7回目となる「大仙市安全安心まちづくり推進大会」については、7月30日に大曲市民会館を会場に開催することとしており、三種町出身で読売新聞特別編集委員である橋本五郎<sup>はしもとごろう</sup>氏の講演などを予定しております。

ごみの減量化対策については、平成25年度の家庭ごみ排出量のうち、燃やせるごみは1万6,699tで、前年度比103t、0.62%の増、燃やせないごみは907tで、前年度比13t、1.45%の増といずれも増加しております。

こうした現状を踏まえ、燃やせるごみの減量化と再資源化をさらに推進するため、本年度から古布類<sup>ふるぬのるい</sup>の計画収集を実施することとしておりますが、現在予定されている年3回の収集のうち1回目の5月分が終了しており、回収量は19.5tとなっております。なお、回収された古布類の状態や出し方も非常に良好であるなど、市民の皆様の関心の高さが伺え、まずは順調な滑り出しであったと考えております。

また、燃やせないごみについても、平成25年4月1日に施行された小型家電リサイクル法に基づき、携帯型ゲーム機やデジタルカメラといった使用済小型電子機器等の再資源化を促進するため、現在、各庁舎に回収ボックスを設置し、リサイクル可能な小型家電の回収を行っているところであります。

資源ごみの回収については、びん・缶、ペットボトル、古紙は3,122t、ペットボトルキャップは820kg、食品トレイは950kg、発泡スチロールは1,570kgを回収しております。

びん・缶、ペットボトル、古紙及びペットボトルキャップについては、回収量が前年度より減となっているものの、食品トレイ及び発泡スチロールについては前年度より増となっております。

平成22年度から市内全地域で実施している廃食用油回収事業<sup>はいしょくようゆ</sup>については、昨年度にこれまで最多の7,637リットルを回収しており、循環型資源としてバイオディーゼル燃料に精製され、軽油の代替燃料として有効活用されております。

大曲仙北広域市町村圏組合による新火葬場の建設については、建築・外構・修景工事及び火葬炉設備工事の発注を終え、来年3月の完成に向け、5月29

日に工事の安全祈願祭が行われております。

国民健康保険事業については、平成25年度決算見込みにおいて、実質収支では約1億8,200万円の黒字であります。実質単年度収支では約9,700万円の赤字となる見込みであります。

平成25年度においても、一般会計から国保会計に対し1億5,000万円の基準外繰り入れを実施しておりますが、毎年度医療費が増加していることなどから、依然として厳しい財政状況が続いております。

今後の国保事業の運営については、本年3月に策定いたしました「大仙市国民健康保険事業運営安定化計画」の後期版に基づき、国保税の収納率向上、医療費適正化及び特定健診等健康づくりの取り組みを推進し、国保財政の安定化を図ってまいります。

次に、健康福祉部関係についてであります。

4月1日からの消費税率引き上げに伴い、所得の低い方及び子育て世帯の経済的負担増を緩和するための臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金については、平成26年度市民税非課税者に対しては1人につき臨時福祉給付金原則1万円を、児童手当受給者に対しては対象児童1人につき子育て世帯臨時特例給付金1万円を、本年度限りの臨時特例措置として給付することとしております。

本市における給付対象者は、臨時福祉給付金で約2万1,000人、子育て世帯臨時特例給付金で約7,200人と見込んでおりますが、2つの給付金とも、今月下旬に案内書を発送の上、7月1日から受け付けを開始し、8月4日から順次口座振替により給付する予定としております。

なお、申請受け付けについては、大曲庁舎及び各支所に特設窓口を設置するなど、万全の体制で臨むこととしております。

障がい者・障がい児福祉の充実については、聴覚に障がいのある方の円滑なコミュニケーション手段の確保と社会参加を支援する体制を充実させるため、手話奉仕員養成講座を8年ぶりに開催しております。講座受講者は21名で、手話通訳士や、ろう学校教員等を講師に招き、9月までの間に18回の講座を開催することとしており、第1回目を5月16日に開催しております。本年度



は入門課程、来年度は基礎課程と位置付け、2年間で基礎的な日常会話を行うために必要な手話表現技術の習得を目指しております。

次に、農林商工部関係についてであります。

水田の春作業については、4月以降温暖な日が続き、耕起作業は順調に進み、また、田植え作業は5月24日に盛期を迎えております。今後の生育が順調に進むよう、県や関係団体と連携して肥培管理の徹底を呼びかけてまいります。

国の新たな農業政策への対応については、将来を見据えた施策の展開が重要との認識から、本市農業の課題や方向性など今後の農業を語り合うことを目的に、新たに「大仙市農業活力創造懇話会」を開催いたします。

この懇話会では、将来の担い手となる若手農業者や流通、加工業者のほか、消費者も交え、広く意見や考え方を伺いながら、内容を整理し、新たな農業振興計画の土台としてまいりたいと考えており、今次定例会に懇話会開催経費に係る予算の補正をお願いしております。

また、農業振興策の柱となる担い手の育成・支援については、さらなる農地の集約・規模拡大の推進と、集落や地域の農地の受け皿となる集落型農業法人の育成・確保が急がれるところであります。

このようなことから、集落営農・法人化支援センターでは、4月から、専門指導員2名に加え太田及び中仙地域を担当する専門指導員1名を配置し、3名体制で取り組んでおりますが、7月からは、さらに1名増員し体制を強化していくこととしており、今次定例会に増員経費に係る予算の補正をお願いしております。

なお、太田地域の東部新規就農者研修施設では9名が、西仙北地域の西部新規就農者研修施設では5名の若き農業後継者が、4月から研修に取り組んでおります。

大豆栽培モデル対策事業については、市内3カ所に設置することとしておりました実証圃について、東部は太田地域、西部は西仙北地域、中央は大曲地域の各経営体に設置を依頼しております。今後、農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センターの技術指導を仰ぎながら、実証圃を通じ収量及び品質

向上に向けた取り組みを進め、その成果等について市内の農家に普及させてまいりたいと考えております。

園芸メガ団地整備事業については、事業主体である J A 秋田おばこにおいて、施設整備の入札が 5 月 1 6 日に行われ、発注を終えております。

本年度は、パイプハウス設置のほか、かん水設備や電気設備などの整備を予定しており、9 月末には全ての工事を終える予定となっております。

なお、パイプハウスの設置については、全 1 0 4 棟のうち試験栽培用に 6 棟を先行実施することとしており、今月下旬に完成の予定と伺っております。また、残り 9 8 棟については、9 月末までに完成させ、ビニールの被覆は来春の雪解け後に行う予定と伺っております。

養液栽培システムによる本格栽培は来年度になりますが、本年度は、パイプハウス 6 棟による試験栽培を「農事組合法人下黒土アグリ」<sup>しもくろつち</sup>が取り組むこととしており、今次定例会に技術習得に向けた支援経費に係る予算の補正をお願いしております。

強い農業づくり交付金事業については、J A 秋田おばこが事業主体となり、大曲地域四ツ屋地内に園芸作物の一元集出荷体制を新たに構築するための施設整備に対する支援として、全体事業費約 1 8 億 3, 8 0 0 万円から消費税相当額を除いた 2 分の 1、約 8 億 5, 1 0 0 万円を当初予算に計上し、財源として全額国庫支出金を予定しているものでありますが、このたび、国の採択が見送られる結果となっております。

この事業は、J A 秋田おばこ管内の園芸生産拡大のため、園芸メガ団地整備事業と合わせて必要不可欠な施設整備であることから、今後、事業計画の精査等を進めるとともに、J A 及び県とも連携し国への働きかけを強化するなど、事業の早期採択に向け取り組んでまいります。

日本型直接支払制度の多面的機能支払交付金事業については、従来の農地・水保全管理支払交付金事業に、主に農業者が実施する農地維持の活動が大幅に拡充され、平成 3 0 年度までの 3 期目が本年度からスタートしております。

本市においては、新規組織を含む 1 5 2 組織において順調に活動が始まっておりますが、水田面積の約 8 割にあたる 1 万 5, 0 0 0 h a に及ぶ事業区域は県内最大であり、市といたしましても、地域の農業者を中心に地域住民の多様

な参画と、地域資源の適切な保全管理や農村環境の向上につながるよう支援してまいります。なお、活動に取り組む組織数や実施面積の増等により、今次定例会に所要経費に係る予算の補正をお願いしております。

7月12日に中仙地域八乙女公園で開催される「2014あきた水と緑の森林祭」については、県内各地から来場される皆様をお迎えするため、会場周辺の環境整備等の準備を進めているところであります。森林祭での各種イベント等では、エコ玉皮を使用した昼花火の打ち上げなど“大仙市らしさ”を発信できるように努めてまいります。

今回で第88回大会となり、本大会発祥の創造花火が誕生50周年となる全国花火競技大会「大曲の花火」については、8月23日に開催の予定であります。大会テーマは、「創造花火半世紀 先人を讃え、新たなステージへ。守破離」としてしております。「守破離」とは、道を極めようとする際の発展過程を示した概念とされており、伝統的な日本の花火の良さを再認識し、芸術性を重んじ、常に進化することに挑戦し続けてきた花火師達の精神が表現されております。

大会開催にあたっては、昨年、京都府福知山市の花火大会で起こった露店爆発事故を受け、火気を扱う露店を集中的に管理するなど安全性を考慮しての観覧会場の大幅なレイアウト変更を実施し、安全面でも万全を期してまいります。

発足2年目を迎えた大仙市観光物産協会については、本年度も、観光、物産の振興、イベント事業を継続しながら、さらに事業内容の充実を図るほか、新たな自主事業や観光客の多様なニーズに対応するため、観光ボランティアガイド育成等の事業に取り組むこととしております。

10月から12月に実施されるアフターデスティネーションキャンペーンについては、一昨年及び昨年のキャンペーンでの課題や成果を踏まえ、着地型イベントの開催や10月開催予定の首都圏での観光・物産PR等により、本市の知名度アップと誘客促進に繋げてまいります。

本年3月卒業の高校生の就職状況については、ハローワーク大曲管内の4月末現在の就職希望者373名全員が就職したことにより就職率は100%となり、昨年の99.2%から0.8ポイント増加しております。

このうち、県内就職者は266名で全就職者数の71.3%と、昨年の65.8%から5.5ポイント増加し、これは県平均よりも8ポイント高くなっており、若年者の地元定着を促進する各種就職支援事業や雇用助成金制度、さらには大曲仙北雇用開発協会の取り組みなどが奏効しているものと考えております。本年度も高校生の県内就職支援対策として、県南地区職場研修事業などを実施し、就職や仕事に対する意識高揚と早期離職の抑制を図ってまいります。

次に、建設部関係についてであります。

都市計画道路中通線の整備については、大曲駅前第二地区土地区画整理事業及び街路事業によりそれぞれ事業を実施しておりますが、区画整理事業分については、昨年度JRアンダーパスの前後約500mが完成し一部供用を開始しており、残りの区間についても本年度中に完成する予定であります。

また、街路事業分については、都市計画道路駅東線までの用地補償業務が完了したことから、8月中頃を目処に工事発注を行い、早期の完成、開通を目指してまいります。

区画整理事業については、昨年度に引き続き建物移転及び区画道路新設工事等を予定しておりますが、区画整理事業などに対する国の社会資本整備総合交付金の内示額が、要望額に満たない配分となっていることから、国、県への追加要望を強く行っているところであります。

大曲駅から大曲厚生医療センター前を区間とする大曲駅前通り線の歩道無散水融雪設備事業については、昨年度、取水井及び北街区側の歩道の設備工事が完了し、残る南街区側の歩道の設備工事についても発注を終えており、今冬には全区間での無散水融雪の供用を開始できる予定であります。

道路整備事業については、平成25年度3月補正において繰越明許費を設定した歩道整備について、追分板杭線はまもなく工事を発注予定であり、仙北1号線は設計業務を発注するなど工事発注に向け準備を進めております。

また、市単独事業である各地域25カ所の道路工事のうち、5カ所はすでに発注済みであり、残りの工事についても早期発注に努めてまいります。

なお、市道管理の基礎資料である道路台帳については、合併以来、旧市町村

が整備したものを各地域ごとに管理してまいりましたが、今後、インフラの長寿命化対策を進めるにあたり、事務の効率化と一体的な維持管理体制を確立するためには、道路に関する情報の統合化とシステム化が不可欠なことから、道路台帳の統合化に向けた調査検討を行うこととしており、今次定例会に調査経費に係る予算の補正をお願いしております。

橋梁事業については、4月16日の第2回臨時会において補正予算の承認をいただいた「<sup>たて</sup>館の<sup>はし</sup>橋」橋梁床版補修工事について、5月1日に契約を締結し、5月10日から全面通行止めの交通規制を行いながら工事を実施中であります。

また、昨年度から策定を進めておりました橋梁長寿命化修繕計画の概要がまとまりましたので、今次定例会中に議員各位に報告させていただく予定であります。

除雪機械の購入については、大曲及び協和地域に各1台配備予定のロータリー除雪車について、5月16日に仮契約を締結しており、今次定例会において承認をいただいた後、本契約を締結する予定となっております。

住宅リフォーム支援事業については、5月20日現在で112件の申し込みとなっておりますが、克雪対策工事も補助対象に加えたこともあり、市民の関心は依然高いものとなっております。

なお、昨年度の本事業の実績は411件、補助金額にして6,461万円、対象工事費では10億6,930万円となっており、地域経済に対し大きく貢献しているものと考えております。

次に、国、県関係事業についてであります。

市では、河川や道路に関する情報を共有し、互いに協力して整備を推進するため、国、県それぞれとの事業調整会議を開催しております。5月14日には仙北地域振興局との市事業全般にわたる協議を行ったほか、6月16日には仙北地域振興局建設部との会議を、6月19日には東北地方整備局湯沢河川国道事務所との会議を予定しており、これらの会議等を通じ調整課題について要望や協議を行った上で、国、県から事業に取り組んでいただいております。

雄物川中流部の河川改修事業については、本市分として、国の平成25年度補

正予算では2億8,000万円が措置され、当初予算分と合わせ8億1,000万円を本年度に繰り越しており、また、平成26年度予算では21億9,300万円が配分され、本年度は、合計30億300万円の予算で事業を実施する予定と伺っております。

事業内容については、洪水被害の軽減・解消を図るため、昨年度に引き続いて協和地域峰吉川の中村<sup>あしざわ</sup>芦沢地区、西仙北地域の強首及び寺館大巻地区、南外地域の西板戸地区において、樋門新設及び築堤等の改修工事を実施していただいております。

また、協和地域峰吉川の湯野沢岩瀬地区についても、昨年度に引き続き調査設計を実施中と伺っております。

大曲福見町地内の福部内川改修事業については、昨年度から継続して用地測量を進めており、完了箇所から順次用地買収に入る予定と伺っております。

国道46号協和地域荒川地区における線形改良事業については、引き続き用地補償を進めるほか、まもなく一部区間の盛土工事を発注予定と伺っております。

主要地方道角館六郷線については、斉内川橋において橋梁上部工を施工中のほか、歩道整備事業を実施中の太田地域伊勢堂地区においては、昨年度に引き続き用地補償を進める予定と伺っております。

主要地方道神岡南外東由利線の南外地域<sup>しもぶくろ</sup>下袋バイパスについては、昨年度から本格的に工事に着手しておりますが、今月下旬には湯ノ又地区のミニバイパス区間が開通する予定であると伺っております。

なお、下袋バイパスが開設される地区では、南外中央地区県営ほ場整備事業が並行して実施されており、区画工事は平成23年度に完了し、本年度の補完工をもって事業が終了するものでありますが、バイパス用地の大半は創設換地により取得されており、現在、農道への進入路等の協議が進められていると伺っております。区画拡大による作業能率の向上に加え、バイパス整備により営農上の利便性も高まるものと期待しております。

一般県道水沢西仙北線<sup>とのやしき</sup>の殿屋敷工区については、昨年度に引き続き殿屋敷橋の橋梁下部工を実施中で、まもなく上部工を発注予定であると伺っております。

次に、上下水道部関係についてであります。

上水道事業については、大曲飯田町地内ほか3件の配水管改良工事等について、5月中旬までに発注を終えており、大曲金谷町地内の配水管改良工事については、7月上旬の発注を予定しております。

簡易水道事業については、半道寺地区、淀川地区及び仙北中央地区の経営認可申請等に関わる業務委託について、5月上旬までに発注を終えております。また、心像小杉山地区及び協和中央地区の施設整備工事等については、準備が整い次第発注の予定であります。

下水道事業については、大曲駅東地区の下水道管渠工事1件を発注しておりますが、そのほかの大曲、神岡、南外の3地域の管渠工事及び農業集落排水施設を含む下水道処理施設の長寿命化対策に向けた基礎調査業務、計画策定業務等について、現在、発注に向けて作業を進めております。

次に、教育委員会関係についてであります。

学校施設の整備については、現在、小・中学校全32校の体育館などにおける天井等の非構造部材の落下防止に係る点検・調査が行われており、今月末には結果がまとまる予定となっております。調査結果により対策工事が必要とされた場合には、関係校と協議の上、可能な限り早期に工事に取りかかりたいと考えております。

なお、大曲小学校の第1及び第2体育館については、すでに対策工事の必要性が判明していることから、今次定例会に工事の実施設計経費に係る予算の補正をお願いしております。

西部学校給食センターの建設については、昨年11月から建築工事等が始まり、現在、基礎部分の鉄筋工事を施工中であります。5月からは厨房設備工事も始まっておりますが、今次定例会に外構工事、配送車両及び厨房用備品購入等経費に係る予算の補正をお願いしております。

昨年度から実施している「キャリア教育推進『総合的な学力育成』事業」については、「情報モラルいじめ対策」を重点に取り組んでおり、児童生徒及び保護者の情報モラルに係る意識を高める講演会を、5月20日の大曲中学校を皮切りに全ての小・中学校において実施してまいります。

学習環境の整備については、本年度も、学校生活支援員等の増員配置を行うとともに、新たに特別支援教育担当の教育アドバイザーを配置し、学校生活支援員の研修をはじめ特別支援教育の一層の充実を図ってまいります。

継続事業の「音のまち大仙楽器サポート事業」については、来年度までに年次計画が完了するよう進めており、本年度は、四ツ屋、角間川、協和、高梨、横堀の5小学校と、平和、中仙の2中学校に配備することとしております。なお、5月5日に開催された県のマーチング大会において、大曲小学校、花館小学校、大曲中学校が秋の東北大会の出場権を得ております。

子どもたちの夢を育む「こころのプロジェクト『夢の教室』事業」については、昨年度から、プロスポーツ選手などが講師となる場合の対象を小学生から中学生にまで拡大しており、5月には東大曲、内小友、大川西根、西仙北の4小学校と協和中学校で実施しております。本年度は元サッカー選手、元アイスホッケー選手、元陸上競技選手が講師となっております。

また、大曲地域出身で世界的クラシック歌手のこまつひでのり小松英典氏による中学生を対象とした音楽の「夢の教室」も、大曲市民会館において、5月27日、28日に大曲、大曲西、大曲南、平和、南外の5中学校の全校生徒や保護者、一般市民を対象に実施しております。

「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」については、本市の児童生徒が心の支援を大切にしている交流活動の一層の充実を目指して取り組んでおり、6月4日にはその第一陣として大曲中学校が大船渡市立赤崎中学校と同市の仮設住宅を訪問することとなっております。

また、東日本大震災に関連した交流として、昨年度、花館小学校と四ツ屋小学校が、大曲花火米研究会の支援を受けて取り組んでいる花火米栽培活動の一環として、ブータン国王に花火米を献上しておりますが、ブータン王国名誉総領事が5月28日、29日に両校を訪問し、児童と学校給食を共にし、田植え作業の視察も行っております。

生涯学習の推進については、本年度で8回目を迎えた出前民謡「ふるさと民謡めぐり」を5月14日の西仙北公演を皮切りに開催し、今後11月末まで全地域で順次開催してまいります。また、昨日は、大曲市民会館を会場に第26回秋田おばこ節全国大会が開催され、盛会裏に終了しております。



今秋、本県で開催される第29回国民文化祭については、本市では「旧池田氏庭園秋の園遊会」、「囲碁サミット」、「秋田の美×写真の力」の3事業を実施いたしますが、本番に向けたイベントとして、5月24日の大曲市民会館での民謡フェスティバルの開催を皮切りに、6月7日には現在初夏の一般公開が行われている旧池田氏庭園での呈茶と生け花の展示、6月14日には木村伊兵衛の足跡を巡る撮影会、7月6日には「はびねす大仙」でのこどもカメラマン教室、7月21日には大曲交流センターでの市民交流囲碁大会とこども囲碁教室を開催することとしております。また、イベントのほか、市広報やホームページでの情報発信、JR大曲駅西口階段蹴込みへのPRシールの貼り付け、8月23日開催の「大曲の花火」でのPRなども行いながら、本市で開催される国民文化祭事業の周知活動を実施することとしております。県内外から訪れる皆様に、本市の文化活動の様子を十分にお伝えできるよう準備を進めてまいります。

なお、国民文化祭事業に関連し、故・木村伊兵衛氏ゆかりの資料調査を行っていたところ、同氏の撮影に同行しながら、昭和20年代後半から30年代の地元大曲地域の農村風景を撮影した故・井上一郎氏の孫である井上兵夫氏から、一郎氏が残した写真やネガ2,871点について市への寄贈の申し出があり、5月30日、贈呈式を行い受け取っております。古い農村文化を記録した写真資料は貴重なものであり、今後、市民の皆様に随時公開してまいりたいと考えております。

文化財保護については、大曲地域四ツ屋地内の東北電力変電所の拡張工事に伴う埋蔵文化財の現地発掘調査を4月17日から5月末まで行っており、現在は出土品等の整理作業に入っております。

また、鈴木空如作品については、法隆寺金堂壁画模写を展示する「法隆寺一祈りとかたち」が4月から8月までの期間、仙台市博物館、東京藝術大学美術館、長岡市の新潟県立近代美術館で開催されていることや、先般、NHKのテレビ番組「日曜美術館」で空如の画業が紹介されたことにより、人物顕彰と作品が広く注目されております。このようなことから、国民文化祭の開催に合わせ10月下旬に、本市において空如展を開催いたしたいと考えており、今次定例会に開催経費に係る予算の補正をお願いしております。

スポーツ振興については、4月26日と27日の2日間にわたり、元プロ野球選手の近藤昭仁氏こんどうあきひと、八木沢荘六氏やぎさわそうろく、駒田徳広氏こまどのりひろの3名による小学生野球教室と市民ゴルフコンペを開催しており、10月には、中学生を対象とした同様の教室を開催する予定となっております。なお、この野球教室は、神岡地域に工場を持つ樹脂成形品メーカーの「株式会社セーコン」から橋渡しをしていただき、開催が実現したものであります。

また、5月25日には、父親の積極的な子育て参画・地域の父親同士の連携強化を目的に、「父子チャレンジアカデミー」が西仙北中学校陸上競技場で開催され、南外地域出身でアテネオリンピック代表の伊藤友広氏いとうともひろ、ハードルの世界陸上メダリスト為末大氏ためすえだいをはじめ4名の元陸上競技選手による「かけっこ教室」に77組154名の親子が参加し、走りの基本や「かけっこ」の楽しさ、親子のふれあいを体験しております。

本年度で2回目の参加となった「チャレンジデー」については、5月28日に行われ、スポーツ団体や学校・企業など多くの団体から賛同をいただき、市民の47.1%、4万1,279名の参加を得ることができました。昨年度より参加率が6.4ポイント増えたものの、対戦相手の愛知県碧南市へきなんの69.5%には及びませんでした。なお、今後も市民の健康づくりとスポーツ振興のため、参加率の向上を目指し継続してまいりたいと思います。

また、本年度で10回目を迎え、昨日開催した市制施行記念駅伝競走大会については、市内外52チームによる熱戦が繰り広げられ、市内の沿道を沸かせております。

首都圏の大学を中心とした夏季合宿については、2年ぶりに早稲田大学応援部の学生約150人が、8月5日から14日の日程で本市で合宿を行う予定となっております。これに合わせ、全県500歳野球大会の抽選会を8月9日に大曲市民会館で開催し、その際に同応援部から大会参加の全チームに対しエールを送っていただくこととしております。当日は、市民会館の2階席と3階席を無料開放することとしており、市民の皆様からも早稲田大学応援部の演技をご覧いただきたいと考えております。

スポーツ合宿については、このほか10大学・7高校と日程を調整中ではありますが、交流人口の増加と地域経済の活性化に資するものと考えております。

最後に、平成25年度の一般会計、特別会計及び企業会計の決算概況について申し上げます。

一般会計については、翌年度に繰り越しする財源を除いた実質収支が、8億2,000万円の黒字決算となる見込みであります。

これは、4年連続の豪雪により除雪経費がかかり増したものの、歳出全体における経常経費の節減に努めたことなどによるものであります。

なお、前年度からの繰越金や財政調整基金の増減及び地方債の繰上償還を反映した実質単年度収支については、財政調整基金への2億5,000万円の積み増しと、地方債1億500万円の繰上償還を行ったことから、5億4,000万円の黒字を見込んでおり、これにより平成21年度から5年連続の黒字となるものであります。

国民健康保険事業特別会計をはじめとする特別会計については、全てにおいて実質収支がゼロまたは黒字となっており、企業会計については、水道事業会計が収益的収支において1億8,000万円の純利益があり、病院事業会計では収益的収支が3,200万円の黒字決算となっております。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況を報告いたしました。今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。市政報告とさせていただきます。